

# 諸富家具産地におけるデザイン思考を活用した 新たな商品開発手法の構築（第3報）

佐藤彰 辛川洋介 川口比呂志

平成30年度

## 背景および目的

諸富家具は、県を代表する地場産業であるが、成熟した家具の市場では商品の差別化が難しい現状にある。しかし、ユーザーの潜在的なニーズを発掘し、新たな価値を有する新商品を開発することで、売上げの拡大や新規市場の開拓が可能であると考えられる。

一方、近年、新たな価値を創造するための方法論であるデザイン思考が国内外の様々な産業等で活用されている。そこで、本研究では、諸富家具産地の企業が実践可能なデザイン思考を活用した新たな商品開発手法を構築することを目的とする。

## 研究内容

- (1) 産地企業がデザイン思考を活用する場合に必要なプロセスと手法の効率化と実践の容易性の観点から、産地企業に適したプロセスと手法を検討し選定・マニュアル化を行なった。（表1、図1）
- (2) モデル企業の協力を得て、選定した手法を用いた商品開発を実践し、選定したプロセスと手法の有効性の確認を行なった。

## 研究成果

- (1) 先行して行なった標準的なデザイン思考の手法を用いた実践結果と比較してプロセスの効率化とアイデアの質の向上がみられ、新たな視点から発想した今までと異なる家具を開発することができた。
- (2) 開発した家具は、販売関係者からも一定の評価を受けることができ、商品化に至ったことから、構築した諸富家具産地におけるデザイン思考を活用した商品開発手法が有効であることを確認した。
- (3) 企業への普及を図るため、構築したデザイン思考のプロセスと手法をマニュアルとして作成した。

表1 デザイン思考の基本プロセスの概要

プロセス	概要
1.共感によるユーザー理解	ユーザーの潜在的なニーズや本質的な課題を得るため、実際の言動を観察または、調査者自身が体験することでユーザーを深く理解する。
2.真の問題定義	ユーザーの理解と洞察をもとに本質的な課題を導出し、解決すべき真の問題を設定する。
3.解決のためのアイデア創造	設定した問題の解決策や提供する新たな価値を実現するアイデアを創出し選択する。
4.プロトタイプによるアイデア確認	イメージスケッチやラフモデル等で素早く創出したアイデアを具体化し、その有効性や実現性を確認する。
5.ユーザーテストによるアイデア検証	ユーザーが実際に使用・体験できるプロトタイプを作成し、有用性を検証する。また、フィードバックを得てユーザー理解をさらに深める。

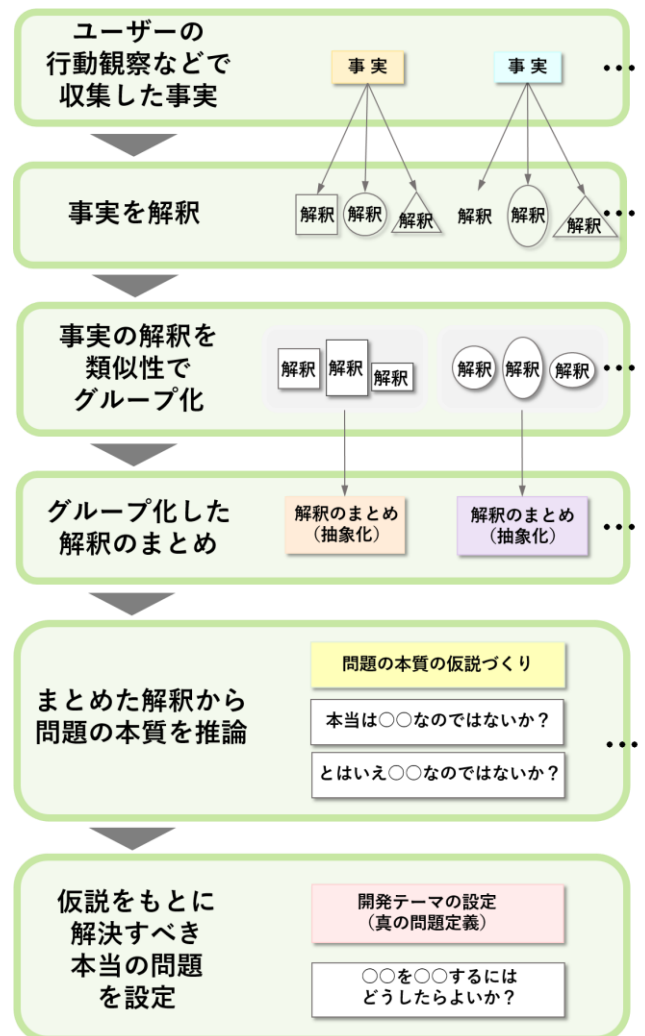


図1 構築したプロセスと手法のマニュアル化（一部抜粋）